

目 次

1. 開催趣旨・目的	1
2. 実施概要	1
3. 第一部 講演「“道” から見えてくる阿佐谷の歴史」	2
4. 第二部 まち歩き「古道を歩いて、歴史をたずねる」	8
5. 参加者アンケート結果	9

1. 開催趣旨・目的

本イベントは、阿佐ヶ谷駅周辺の中世から近代までの歴史を学ぶことで、阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの推進と機運醸成を図ることを目的に開催する。

第一部講演「“道”から見えてくる阿佐谷の歴史」では、杉並区立郷土博物館学芸員の森泉海氏を迎え、阿佐ヶ谷駅周辺の村の変遷、街道や鉄道の開業などの歴史をご教示いただく。

第二部まち歩き「古道を歩いて、歴史をたずねる」では、鎌倉期から現在も形を残すと言われる鎌倉古道を実際に歩き、阿佐谷神明宮や世尊院といった地域の歴史的資財を巡ることで、これからの阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを検討する。

2. 実施概要

- ① 日時 : 令和3年11月27日(土) 10:00~12:00
 - ② 場所 : 阿佐谷地域区民センター3階 第4会議室
 - ③ 参加者数 : 11名
 - ④ プログラム :
- 10:00 開会の挨拶 (杉並区 拠点整備担当課長 塚田 千賀子)
- 10:10 第一部 講演「“道”から見えてくる阿佐谷の歴史」
講師: 森泉 海 (杉並区立郷土博物館 学芸員)
- 11:00 第二部 まち歩き「古道を歩いて、歴史をたずねる」
- 道順1 けやき屋敷南側古道
- 道順2 阿佐谷神明宮
- 道順3 世尊院
- 12:00 閉会の挨拶 (株式会社 計画工房 村上 美奈子)

3. 第一部 講演「“道”から見えてくる阿佐谷の歴史」

<講師の紹介>

森泉 海 先生 杉並区立郷土博物館分館所属

明治時代以降の近現代史が専門

本館在籍中に手掛けた展示としては、荻外荘や浴風会に関する特別展

分館に異動してからは、銭湯や高校野球の歴史に関する特別展

最近では、「チェコのアーティストが描く杉並」等の担当

<講演録>

○はじめに

区内の「道」と言えば、青梅街道、甲州街道、五日市街道、人見街道、環状七号線、環状八号線、早稲田通り、中杉通り、また、中央線などの鉄道も思い浮かぶかもしれません。

これらの「道」は、それぞれ時代に目的を持って造られたものです。また、川の流れと道は何年経っても変わらないと言われており、道の歴史からは色々な地域の歴史が見えてきます。

○古代

杉並は、明治以降、鉄道が開通してから発展してきた街であり、鎌倉時代、平安時代は極端に歴史的な出来事が少ないという特徴があります。そのため、阿佐谷地域についても、江戸時代以前、戦場やお城があったというような目立った歴史はありません。しかし、そういった中でも古代から人が暮らしていた痕跡が、数少ない資料から分かっています。

かつての阿佐谷には「桃園川」という今は暗渠になった川があり、その周辺 15 か所ほどの遺跡では、縄文時代以降に人が移り住んだ痕跡として、土器や石器が出土しています。

その後、奈良時代、平安時代初期になると、阿佐谷の北に、今度は東山道という官道（国が造った道）が通っており、「乗」に「瀧」と書いて乗瀧駅という宿場、中継所に相当するものがありました。この「乗瀧」を「アマリヌマ」と読むか「ノリヌマ」と読むかによって、「アマリヌマ」であれば天沼、「ノリヌマ」であれば練馬になるといった二つの説がありますが、いまだに決定的な資料が出ていないようです。

○鎌倉時代～江戸時代

阿佐谷地域では、鎌倉時代の板碑（人の供養などにつくった石碑）が出土されており、その頃からこの周辺に人が暮らしていたことが分かります。

鎌倉、室町時代を経て江戸時代になると、江戸氏という武士がこの周辺を治めており、その一族として、「あさかや」氏という武士がいたということが分かっています。

「江戸氏庶流書立」という、熊野的那智大社の信者、檀家についての資料からは、「あさかやとの」という人物が阿佐谷の地を治め、その家臣なども住んでいたことが分かります。

江戸時代に入りますと、阿佐谷は高円寺村、阿佐ヶ谷村、馬橋村、天沼村、成宗村、田端村という六村に別れます。このうち、阿佐ヶ谷村、天沼村は、現在の阿佐ヶ谷駅周辺に該当します。

当時、この二つの村は今の赤坂にある日枝神社の領土となっており、日枝神社の祭礼や社殿の建て替えの手伝いなどをしていたそうです。

○江戸時代の道と鷹狩り

江戸時代は、秩父とか青梅、多摩周辺の産物を江戸の中心に運ぶため、青梅街道とか甲州街道とか五日市街道、人見街道といった道が造られるようになりました。

また、高円寺や阿佐谷の周辺では、当時の「鷹狩り」という遊びをしていたそうです。

現在の地名には残っていませんが、昭和の戦前時期までは善福寺川沿いに将軍が鷹狩りに行くために通った「御成り道」という道がありました。他にも、昭和初期までは「鳥見山」や「雉山」という伝承的な地名も使われていたという話があります。

○鎌倉街道から見えてくる阿佐谷の歴史

江戸時代にできた五日市街道や青梅街道よりも前に造られていた道、これが鎌倉街道と呼ばれる道ですが、これらの古道からも、かつての生活の痕跡が見えてきます。

鎌倉街道という名称から、「いざ鎌倉」で、鎌倉に何かあったら駆けつけるための道、すべて鎌倉に繋がっている道と思われがちですが、(中世から江戸時代になり)青梅街道などの街道が整備される以前に造られた南北に連なる道を、当時の人が鎌倉街道と呼んだことが由来とされています。

杉並にも鎌倉街道と言われるものが何か所かあり、阿佐谷パールセンターもその一つです。パールセンターの途中の交差点にある、二つの石塔は、パールセンターが鎌倉街道であったことを示す重要なものです。石塔には元禄4年(1697年)築造と彫られていることから、江戸時代からこの地に置かれ、人が住んでいたことも分かります。



【パールセンター内の石造物】パールセンターが元禄時代から存在する鎌倉街道であったと書かれている。

この道を辿っていくと、その沿道には石造物や社寺地がたくさんあります。

南には大宮八幡宮があり、北には鷲宮八幡神社(中野区)や権現様が祀られている圓光院(練馬区)があります。昨年閉園となった「としまえん」は、かつて豊島氏という武士の居城である豊島城でした。

また、阿佐谷周辺の鎌倉街道の沿道から出土した石造物が、大宮八幡宮周辺から出土した石造物と全く同じ様式であったことから、それぞれの地域の人たちの交流や、人の行き来がうかがい知れます。

○南につづく鎌倉街道

パールセンター、すすらん通りを南へ進み、青梅街道を渡って直進すると、梅里中央公園があります。公園西側の道路に面して立っているお地蔵様は元文2年(1737年)につくられたとされており、この道も昔からある道だということが分かります。

さらに南に進み、現在の路線バスのルートを進んでいくと大宮八幡宮に至りますが、その途中の松ノ木のバス停付近にも、梅里中央公園のお地蔵様と同じような石碑、石造物があることから、この道も鎌倉街道であったことがうかがえます。

道端にある石碑、石造物や、道の曲がり具合などを注意して見ることが、昔からある道かどうかを知るヒントになるかと思えます。

○阿佐谷の地域資財について

阿佐ヶ谷駅近くの世尊院というお寺は、室町時代末期につくられたとされる不動明王がご本尊になっており、永享元年（1429年）頃に創立されました。文化財としては観音堂、阿弥陀三尊や板碑などを所蔵しており、区の登録文化財になっています。

その世尊院を北に進んで、権現道と言われる鎌倉街道（現在の松山通り）を北に進んだところに法仙庵というお寺があります。宝仙庵は文久年間（1861～1863年）頃に、この地に創立されたと伝わるお寺であり、当時の名主の方が土地を提供して、阿佐谷の村内に散らばっていた石塔やお墓などを集めて共同墓地をつくったのが始まりだと言われています。ご本尊は江戸後期につくられたと言われる釈迦如来坐像で、当時の石碑や板碑などの所蔵品が文化財に指定されています。また、共同墓地からは文法2年（1318年）頃、つまり鎌倉～室町時代の板碑、石塔が5基ほど発掘、発見されています。これは、室町、鎌倉時代から人が暮らしを営んでいたことがわかる知る貴重な資料となっております。

また、阿佐谷神明宮は旧阿佐ヶ谷村の鎮守様であり、祭神は天照大御神です。日本書紀や古事記の時代、ヤマトタケルが遠方に征伐に行ったときに、この辺に立ち寄って休憩したという伝承があります。それを聞いた後の時代の方が、今の社から東寄りの、杉森中学校やお伊勢の森児童遊園がある辺りにお社を建てて祀ったのが始まりと言われています。（伊勢神宮の祭神と同じ、天照大御神が祀られているため、お伊勢の森と名付けられています）

その後、江戸時代中期頃に世尊院の横にお社を移転し、一度、神明宮から天祖神社へと名前が変わりましたが、再度、神明宮に複称して現在に至っています。

○お伊勢の森と神明宮

現在、お伊勢の森児童遊園にはトキの石像が置いてあります。神明宮の旧社がこの地にあった頃は樹がうっそうと生い茂っていて、多くの野生動物も暮らしていたそうです。

そして、現在では絶滅危惧種であるトキが暮らせるような自然が残っていたとされており、トキの石像とともに「老松や 青く茂りて 御伊勢山 ときの巢造る 神徳の松」という句が刻まれています。なお、トキが営巣していた理由としては、樹が生い茂っていた事のほかに、江戸時代には阿佐谷周辺が将軍家の鷹狩りの場所になっており、鳥見役という役人により鳥や動物の捕獲が厳しく管理されており、トキは攻撃や鷹狩りの対象ではなく、どちらかと言えば守られていた存在であったとされています。



【お伊勢の森児童遊園】神明宮の旧社があった阿佐谷北5丁目の一部が、今でも当時の様子を伝える区立公園として残されている。



【民間信仰石塔】早稲田通りが細道に枝分かれる地点に石塔が建てられている。

○早稲田通りと石造物

お伊勢の森の南西付近（阿佐谷北五丁目 42 番地）に、早稲田通りから枝分かれする細い道沿いに江戸時代に造られた民間信仰石塔があります。早稲田通りも元は所沢道という、所沢方面に繋がる古道の一つですが、この細い道も昔から残されていた古道の一つであり、駅が無い時代には、早稲田通りから阿佐ヶ谷村の中心に連なる道として使われていたと考えられます。

このように、特に分かれ道などにある石造物をみると、かつてその道がどのように使われていたのか、周辺の人々の生活の痕跡を知るヒントになると思います。

○明治以降の阿佐谷地域と廃藩置県

明治時代になりますと廃藩置県が行われました。阿佐谷地域は一度、品川県という県に組み入れられた後、品川県の名前が変わり東京府に入りました。

その後、一度だけ神奈川県に編入されたこともありましたが、その主な理由としまして、当時、生糸の生産と輸出が日本の重要な産業になっており、その生糸を輸出する横浜港と、生糸の生産地である多摩地域を一つの県で管轄する目的で神奈川県に組み入れられたと考えられます。しかしながら横浜までは遠すぎたということと、玉川上水の管理を東京府が行った方がいいということがありまして、再び東京府の方に編入されることになりました。

○杉並村の誕生

明治 21 年になりますと、天沼村、阿佐ヶ谷村、馬橋村、高円寺村、成宗村、田端村が合併して、杉並村という村ができます。この杉並村の村役場は世尊院の本堂にありました。杉並村の誕生から大正 11 年、阿佐ヶ谷駅ができた頃まで、世尊院の本堂が“役場”ということになっていたそうです。

当時の杉並の産業についてですが、藍染、お茶、甘藷、大根類の生産や、あとは、杉丸太、養蚕の生産なども行われていたそうです。当時は生糸の生産が日本の重要産業だったので、生糸、蚕を研究する施設として、高円寺の南側に国立の蚕糸試験場がありました。

当時の杉並は、和田堀村と杉並村と井荻村と高井戸村という 4 村に分かれていました。村民の職業は、その多くが農業従事者、次いで工業、その次が公務員、軍人、官吏、官公吏など、次いで商業、交通運輸業（鉄道関係者）といった分布になっています。

○鉄道の開業と駅の誘致

近代の発展の礎となるもっとも重要な出来事に「鉄道」が挙げられます。日本の鉄道は東海道線をはじめ、明治 5 年の開業が始まりですが、その後、各地に鉄道が伸びるようになり、杉並地域でも明治 22 年に主に甲州地方の石灰岩を運ぶ鉄道が必要ということで、甲武鉄道という鉄道が開通することになりました。

これが現在の中央線になる鉄道ですが、当初は新宿駅から、新宿、中野、武蔵境、国分寺、立川駅の 5 駅だけで運行されていました。その後、明治 24 年に杉並地域で初めての駅となる荻窪駅が開業します。また時を経て、大正 11 年に高円寺駅、阿佐ヶ谷駅、西荻窪駅が開業します。

阿佐ヶ谷駅の開業に際しまして、阿佐ヶ谷村と、その東に位置する馬橋村のそれぞれの住民が競って誘致運動を繰り広げました。

その結果、一度は馬橋村に駅をつくと決まりましたが、阿佐ヶ谷村の村民が土地を寄付する

と主張し、また、馬橋村では高円寺駅と近すぎるのではないかという声もあり、結局は阿佐ヶ谷村（現在の阿佐ヶ谷駅の場所）に決まりました。

この誘致運動の際に、馬橋村の住民の人たちが、どうしても駅が欲しい。と考え、駅になるはずの場所につづく道を整備しました。その南北に連なる道が現在の馬橋通りになります。今は細い一本道ですが、もし馬橋通りと中央線の交わる辺りに駅ができていたら、今の阿佐ヶ谷駅のように賑わっていたかもしれません。

○馬橋公園と軍用地

中野駅が開業した際に、その北側に陸軍鉄道隊が設けられ、そこから高円寺、阿佐谷方面に至る場所というのは陸軍用地として使われることになりました。高円寺北の馬橋公園も陸軍用地として使われており、陸軍の飛行場をつくるという計画がありました。格納庫や滑走路をつくる計画まで進みましたが、その後、立川にもっと大きな広い土地を買収し、立川に飛行場をつくることになったため、馬橋公園の飛行場計画は無くなりました。

馬橋公園と日大二高を結ぶ細い道は、住民の方が良く使われている名もなき道だと思いますが、この道が、かつて滑走路になる計画があった道です。

○阿佐ヶ谷駅の開業

大正 12 年に阿佐ヶ谷駅が開業することになりました。当時はレトロな三角屋根の建物でした。昭和 30 年代に建て替えられ、その後、昭和 39 年、東京オリンピックの年には高架化・複線化によって現在の位置に近い姿になりました。

鉄道が開通して、青梅街道や早稲田通りに乗合自動車も発展し、西武軌道（後に都電杉並線）青梅街道沿いや中央線沿いなどの鉄道沿いに人が移り住むようになりました。

○関東大震災と杉並の人口増加

その後、大きな出来事としては大正 12 年に発生した関東大震災があります。杉並には大きな被害はなかったのですが、その一方で、杉並には畑や空き地が多かったことから、重大な被害を受けた下町や東京中心の人々が関東大震災後に移り住んできました。

大正 2 年の東京中心部の人口は 205 万人で、東京市外、杉並を含む郊外地域の人口は 77 万人でした。これに対し、関東大震災後、東京中心部の人口は 152 万人まで減少し、郊外地域の人口は 171 万人まで増加しました。

郊外地域のなかでも、現在の杉並区周辺と品川、荏原中延周辺は極端に人口が増加しました。震災前から震災後にかけて、この二つの地域では 500%を超える人口増加がありました。阿佐谷地域はどうだったかというと、大正 12 年関東大震災の直前まで杉並村の人口 19290 人に対して、翌年には 2.7 万人、翌々年には 3.6 万人と約 2 倍に増加しています。

阿佐ヶ谷駅の乗降者数も、大正 12 年の関東大震災前までは 4.5 万人ほどでしたが、その 2 年後には 27 万人まで急増していることから、短期間に阿佐谷地域に多くの人移り住んで来たことが分かります。

関東大震災後に移り住んできた人々の中には、阿佐ヶ谷文士と呼ばれた井伏鱒二や太宰治などといった人も含まれています。まだ土地も安かったため、落ち着いた雰囲気の中でゆっくり小説を書きたいという理由で移り住んできたそうで、阿佐ヶ谷会という会を結成して文学者同士で交流したそうです。

○戦時中、戦後の道の発展

その後関東大震災後に郊外に人が住み始めたことによって、中心部と郊外を結ぶ鉄道も造られました。京王電鉄は大正2年から既にありましたが、小田急電鉄や西武鉄道、現在の井の頭線にあたる帝都電鉄が関東大震災後に開通しています。この頃から地下鉄・丸の内線の計画がありましたが、戦争に伴う物資、予算不足によって凍結されており、最終的には東京オリンピックの前に間に合うように、昭和29年に開通しております。

戦争の時代になりますと、阿佐谷地域も空襲被害を受け、阿佐ヶ谷駅の南側は焼夷弾で焼失した歴史があります。延焼を防ぐためにあえて建物を壊す、建物疎開（強制疎開）が行われました。

中杉通りは、この建物疎開による空地を使い、現在のような広い道になったものです。戦後しばらくは、中杉通りは空地のまま放置されていたそうですが、昭和27年に都道として整備され、正式に都市計画道路補助133号線として開通しました。そして、開通に際しては、地元有志によってケヤキの木が133本ほど植えられました。

また、昭和39年の東京オリンピックの開催に際し、羽田空港と駒沢や朝霞などの選手村予定地を結ぶ道路が必要だったので、オリンピック道路として環状7号線が造られました。

○現代の阿佐谷地域へ

その後、高度経済成長期になり、光化学スモッグや東京ゴミ戦争などの環境問題もこの杉並地域ではありました。パールセンターでは産業、商店街の活性化のために、昭和29年から『阿佐谷七夕まつり』というお祭り行われ、現在に至っています。

また、この周辺のイベントとしては、『阿佐谷ジャズストリート』だったり、『al:ku 阿佐ヶ谷（アールク阿佐ヶ谷）』など、商業施設も増え、新しい時代に向かって阿佐ヶ谷駅周辺がどのようになっていくかというのは郷土博物館としても注目したいと思っています。

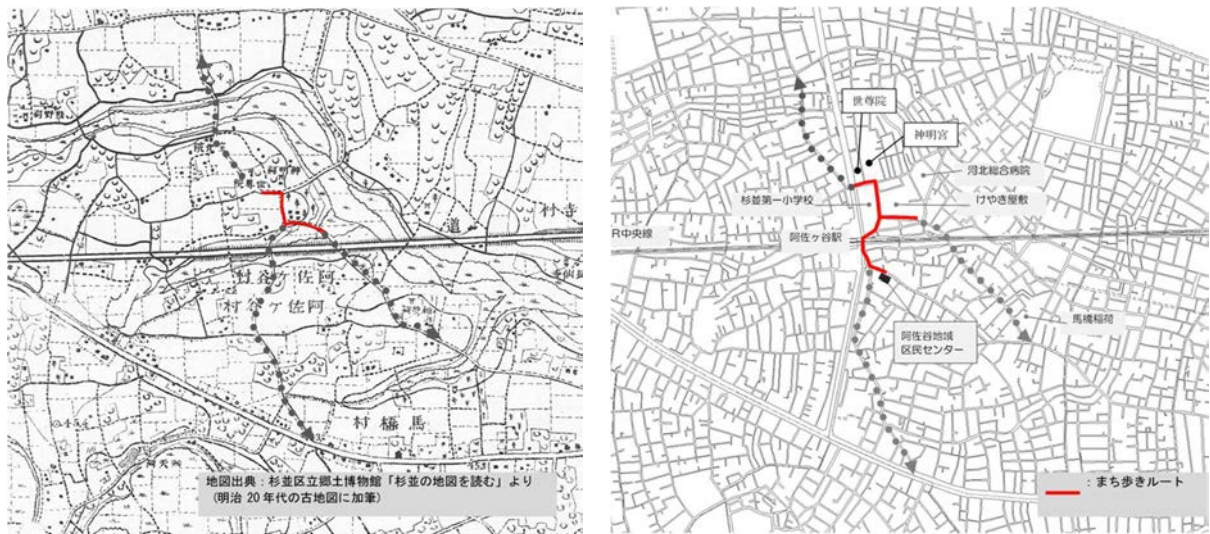
4. 第二部 まち歩き「古道を歩いて、歴史をたずねる」

まち歩きの地図

阿佐ヶ谷駅周辺地区にある、鎌倉期から存在すると言われる道を歩き、古道と呼ぶにふさわしい道を知って、体験した。資料の右が現在の地図、左が明治20年代の古地図となる。

明治20年代の地図では、JR中央線（当時は甲武鉄道）は開通しているが、阿佐ヶ谷駅は未開業。中杉通りも形態が無いが、道順1で歩く古道は当時も存在したことがわかる。

青梅街道や早稲田通りなど、東西方向に延びる道は江戸期に整備されたが、それ以前の鎌倉期では、南北方向に延びる道が主流だった。当時は地形を活かした暮らしのなかで、高いところに社寺地があり、それらを結ぶ道ができたと言われている。



<道順1：けやき屋敷南側古道>

練馬の圓光院、中野の鷲宮八幡神社と、杉並の大宮八幡宮を結び、南北に延びる鎌倉街道から、馬橋稲荷神社の方向に枝分かれする。けやき屋敷南側の古道を歩く。

けやき屋敷や河北総合病院の昭和初期の写真を参考資料に、株式会社計画工房の村上氏に周辺の歴史や変遷についてご教示いただいた。

<道順2：阿佐谷神明宮>

阿佐谷神明宮の境内を歩き、宮司様にお話を伺った。

阿佐谷北五丁目の杉森中学校の周辺から、元禄時代の頃に現在の位置に社を移したが、明確な時期が明らかになっていない。旧社のあった阿佐谷北五丁目の、最後に残った神明宮の境内地を杉並区に所有を移し、お伊勢の森児童遊園となった。お伊勢の森という名称は、神明宮の祭神が伊勢神宮と同じ天照大御神であることが由来となっている。

<道順3：世尊院>

世尊院の本堂や境内を見学し、住職様にお話を伺った。

大正5年頃の地図では、世尊院は現代の中杉通りを跨るような大きな敷地であったが、中杉通りを整備するに当たって、土地を提供し、本堂を建て替えた。

5. 参加者アンケート結果

1. 本日のイベント参加の動機について（複数回答可）
 - ・杉並区（阿佐谷地域）の地域史に興味があった 7/9
 - ・杉並区（阿佐谷地域）のまちづくりに興味があった 3/9
 - ・第一部の郷土博物館学芸員による講演に興味があった 5/9
 - ・第二部の神明宮や世尊院を巡るまち歩きに興味があった 3/9

2. 本日のイベントに参加してみて、興味深かった項目について（複数回答可）
 - ・学芸員による講演 8/9
 - ・まち歩きけやき屋敷南側古道 5/9
 - ・まち歩き神明宮 6/9
 - ・まち歩き世尊院 7/9

3. 今後、参加してみたいと思うイベントについて（複数回答可）
 - ・まちの歴史に関するイベント 9/9
 - ・まちのみどりや景観に関するイベント 5/9
 - ・まちの賑わいに関するイベント 1/9
 - ・まちの道の活用に関するイベント 3/9

4. そのほか、本日のイベントについてご意見、ご感想について
 - ・杉並第一小学校の東側通りがくねっているのが不思議に感じました。今後の発見に興味があります。
 - ・住んでいても知らないことが多く、勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・とても楽しかったです。知らなかった魅力を知れてよかったです。
 - ・10年程阿佐谷に住んでおりますが、これまで地域の歴史や由来を知らなかったので、大変貴重な機会を頂き、勉強になりました。日々生活における視点も変わりそうです。
 - ・道なりに歩き、道に迷うことが多かったのですが（方向感覚と中央線の走り方がズれているため）今日の講義で道の歴史を知り、とても勉強になりました。住居が湿地帯だったのでショックでした。たいへん楽しかったので、また参加したいです。投かんされたチラシでこのイベントを知りました！！
 - ・大変勉強になりました。またこういったイベントがあれば参加します。
 - ・森泉先生のお話をもっと細かくお伺いしたかったです。町のことをもっと深く調査された際には再び講演会をお願い致します。
 - ・大変興味深く拝見、拝聴しました。おもしろかった。今後も参加機会があれば参ります。区役所の皆さまも土曜日にお疲れさまでした。

<問合せ先>

杉並区 都市整備部 市街地整備課 拠点整備係
住 所：〒166-8570 杉並区阿佐谷南 1-15-1
電 話：03-3312-2111（内線 3383）
FAX：03-3312-2907
メー ル：KYOTEN-T@city.suginami.lg.jp